

ごあいさつ



日本WHO協会 理事
大阪府薬剤師会 会長

乾 英夫 (いぬい ひでお)

「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマにした2025年大阪・関西万博が本年4月13日から半年間、大阪 舞洲で開催されます。長いコロナ禍を乗り越え、インバウンド（訪日外国人）が過去最多を更新し、大阪の街は活気に溢れています。

日本WHO協会では、この度『だれひとり取り残されない外国人医療』をテーマに、休眠預金活用事業に採択され助成事業として行うこととなりました。関西とそれ以外の地域の外国人が、医療サービスに必要な情報を言語に関係なく入手でき、言語・国籍に関わらず保健医療機関で安心して保健医療サービスが受けられる社会になることを目標に掲げています。詳細については協会ウェブサイトの「だれひとり取り残されない外国人医療」のページをご覧ください。<https://japan-who.or.jp/dormant-deposits/>

私の所属する大阪府薬剤師会においても、日本語が十分話せない外国人旅行者・居住者が体調不良や健康に不安を感じた時に府内の薬局に気楽に立ち寄り、安心して健康相談や医療機関への受診勧奨ができる体制を構築し健康サポートの窓口として薬局を活用できるよう大阪府の委託を受け、2006年度作成の「薬局店頭における外国人対応マニュアル」【英語、韓国・朝鮮語、中国語（繁体字、簡体字）に対応】に加え、より多様な外国の方に活用できるよう、新たに5か国

語（スペイン語、ポルトガル語、タイ語、ベトナム語、フランス語）に対応した薬局向け多言語マニュアル（冊子）を作成、薬局に配布し活用を進めています。

一方、我が国は2040年に向けて急速な人口減少、少子高齢社会の中で社会保障の担い手の確保が非常に困難となり、地域社会の姿も激変し、そのスピードや変化も大きくばらつくと思われられます。これからの医療の姿は、この10年ほどの間で度重なる国の提言等により当面目指すべき方向性が示され、特に地域における薬局・薬剤師のあり方については、「患者のための薬局ビジョン」を踏まえ、かかりつけ薬剤師・薬局機能を発揮し、対人業務の強化や医療機関等との地域連携に取り組むことが求められています。薬局においては、調剤・服薬指導及びフォローアップ等の外来患者への対応に係る機能や訪問薬剤管理指導等の在宅患者への対応に係る機能といった医療提供機能と共に、OTC 医薬品等の販売や健康相談など、未病の方を含む地域住民に向けた対応に係る健康サポート機能を持つことが求められ整備を進めています。

今後とも日本WHO協会の皆さまと顔の見える関係を築き、更なる連携を図ることにより、地域住民の健康とウェルビーイングに貢献してまいりますので、ご支援・ご協力をお願い申し上げます。

2025年 4月